

若手のための現代音楽企画ゼミ 2016 ～音楽を伝える言葉を身につける～

「学ぶ」「考える」「発表する」ことに焦点をあてた多角的なプログラムを通じて
「音楽を伝える言葉」を身につける

「音楽を伝える言葉」とは、自分が面白いと思う音楽を、明快に相手に伝えるための言葉です。コンサート主催者や企画者、オーディションの審査員など、発表の機会を作る関係者に、企画の内容や魅力を的確に伝え、発表の場を獲得する言葉を養うために、「若手のための現代音楽企画ゼミ 2016」では様々なプログラムを用意しました。現代音楽を社会へ発信する意欲があり、企画を立案し、企画内容をプレゼンテーションする意志のある音楽家を募集します。

■ 若手のための現代音楽企画ゼミ 2016 概要

会 期 2016年7月20日(水)～公開プレゼンテーション 2017年1月19日(木)

講 師(敬称略、五十音順):

池田卓夫(音楽ジャーナリスト)

梶 奈生子(東京文化会館事業企画課長)

楠瀬寿賀子(公益財団法人せたがや文化財団音楽事業部)

国塩哲紀(東京都交響楽団芸術主幹)

中川賢一(ピアニスト、指揮者)

沼野雄司(音楽学者、桐朋学園大学教授)

久野敦子(公益財団法人セゾン文化財団 事務局長兼プログラム・ディレクター)

平原慎太郎(OrganWorks 主宰、ダンサー・振付家)

水上俊秀(一般財団法人地域創造 芸術環境部ディレクター(音楽))

箕口一美(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科講師)

会 場: 東京芸術劇場 ミーティングルーム、シンフォニースペース、リハーサルルーム

主 催: 公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト

協 力: 公益財団法人東京都歴史文化財団東京芸術劇場、東京文化会館

■ 応募概要

応 募 資 格: 35歳以下(2017年3月末時点)、現代音楽を扱う企画を発表したいと考えている音楽家

定 員: 10名程度

応募料・受講料: 無料

応募受付締切日: メールエントリー : 2016年6月24日(金) 必着

書類受付 : 2016年6月30日(木) 郵送必着

※メールエントリー完了後、応募書類・資料を提出された方を選考対象とします。

応募パッケージダウンロード先 URL: <http://www.tokyo-ws.org/archive/2016/05/seminar2016.shtml>

応募に関するお問い合わせ:

トーキョーワンダーサイト本郷「若手のための現代音楽企画ゼミ 2016」担当

E-MAIL: seminar2016@tokyo-ws.org URL: <http://www.tokyo-ws.org>

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内
公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト
広報担当: 市川、藤井

講師プロフィール(敬称略、五十音順)**池田卓夫**(音楽ジャーナリスト)

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。新聞記者として東京や広島、ドイツのフランクフルトで経済分野を取材。「ベルリンの壁」崩壊から旧東西ドイツの統一を現地から報道。帰国後は音楽担当の編集委員を長く務めた。音楽についての執筆は高校生時代に始め、音楽雑誌への寄稿歴は30年を超える。演奏会やオペラ、CDなどの企画、MC(司会)、翻訳、音楽コンクールの審査なども手がける。2012年に会津若松市で世界初演した福島復興復活支援オペラ「白虎」ではエグゼクティブプロデューサーを務め、三菱UFJ信託芸術文化財団の「佐川吉男賞」を受賞。東京都台東区芸術文化支援制度アドバイザー、エンジン01文化戦略会議メンバー。

梶 奈生子(東京文化会館事業企画課長)

藤原歌劇団オペラ公演及び新国立劇場との共催オペラ公演、新国立劇場技術部調整課における制作を経て、(株)ヴォーチェのチーフ・ディレクターとして主催オペラ公演やコンサートの企画・制作及びコンテンツ制作・販売、(財)江副育英会の新進アーティスト支援事業に携わる。

楠瀬寿賀子(公益財団法人せたがや文化財団音楽事業部)

東京藝術大学音楽学部卒業。音楽雑誌等の編集・執筆を経て、1988年～2015年津田ホールの開館準備室から閉館まで勤務(1995年よりプロデューサー)、1997年～2007年滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール・音楽担当プロデューサー、2010年～13年(公財)せたがや文化財団音楽事業部事業部長を務め、その後も事業企画などを行う。1999年～(一財)地域創造「公共ホール音楽活性化事業」などのコーディネーターほか、コンサートやワークショップなどの企画・プロデュース、アウトリーチやワークショップなどの研修コーディネーター・講師、執筆活動などを行っている。

国塩哲紀(東京都交響楽団芸術主幹)

中央大学文学部文学科ドイツ文学専攻卒業。岡山シンフォニーホールプロデューサー、東京オペラシティ文化財団チーフプロデューサーを経て、2013年4月より現職。吹奏楽関連の執筆や、演奏会・ラジオ番組の司会も行う。共著に『クラシック・コンサート制作の基礎知識』(ヤマハミュージックメディア)等。

中川賢一(ピアニスト、指揮者)

桐朋学園大学音楽学部でピアノと指揮を学び、ベルギーのアントワープ王立音楽院ピアノ科首席修了。1997年ガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。ヨーロッパ国内外の様々な音楽祭に出演。ソロ、室内楽、指揮者としての活動の他、ダンスや朗読など他分野とのコラボレーションも活発。ピアノ演奏とトークのアナリーゼを展開し好評を博す。指揮者として、東京室内歌劇場、東京フィル、仙台フィル、広響他と共演。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」メンバー。現在、お茶の水女子大学、桐朋学園大学非常勤講師。

<http://www.nakagawakenichi.jp> * ブログ、Twitter、Facebook も随時更新

沼野雄司(音楽学者、桐朋学園大学教授)

武蔵野音楽大学音楽学学科、東京藝術大学大学院音楽研究科を経て、同大学院博士後期課程修了。2008～09年、ハーバード大学客員研究員。主な著書に『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ 前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』(音楽之友社)、『光の雅歌 西村朗の音楽』(西村朗との共著、春秋社)、『日本戦後音楽史 上・下』(共著、平凡社)、『楽譜を読む本』(共著、ヤマハミュージックメディア)など。

久野敦子(公益財団法人セゾン文化財団 事務局長兼プログラム・ディレクター)

実験的な事業を多く取り上げる多目的ホール「スタジオ 200」(1992 年閉館)でプログラム・コーディネーターを務めたのち、セゾン文化財団に入職。現代演劇、舞踊を対象分野に助成プログラムの立案、運営のほか、自主製作事業の企画、運営を担当。舞台芸術のための新たなインフラ開発、才能発掘、育成に関する支援策を考える。2016 年より現職。横浜市芸術文化振興財団理事、横浜市創造界隈形成推進委員。

<http://www.saison.or.jp/>

平原慎太郎(OrganWorks 主宰、ダンサー・振付家)

2004 年から 2007 年まで Noism に所属。退団後フリーランスに転身。自身が主催する「OrganWorks」、近藤良平主宰「コンドルズ」等に参加し国内外問わず広くダンス作品に関わっている。また前川知大主宰イキウメのステージング、小林賢太郎作品への振付提供、現代美術家播磨みどりとのコラボレーションなど、演劇、現代美術等他分野のアーティストとの交流も盛んに行う。雑誌「BRUTUS」の特集『つぎのひと。～明日を変える人物カタログ～』でパフォーミングアーツ部門で選出される。2011 年 KIMDC 最優秀振付家賞受賞、2013 年文化庁新進気鋭芸術家海外研修派遣にてスペインに 9 ヶ月研修、2015 年小樽市文化奨励賞受賞、「トヨタコレオグラフィアワード 2016」ファイナリスト。

水上俊秀(一般財団法人地域創造 芸術環境部ディレクター(音楽))

仙台市市民文化事業団で舞台音響担当の後、事業企画セクションで演劇ワークショップ制作担当、演劇プロデュース公演音響プラン、オペレート担当。その後、仙台国際音楽コンクール事務局で出場者担当、広報担当を経て 2011 年より現職。地域の未来を切り開くために公共ホールが地域の人や団体と新しい関係を築くことを目的した、クラシックの新進演奏家とコーディネーターを派遣してアウトリーチ事業を行う公共ホール音楽活性化事業(通称:おんかつ)等に携わっている。

箕口一美(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科講師)

国際基督教大学教養学部人文科学科卒業。コンサートホールにおける主催公演、コミュニティ・エンゲージメント基本設計、企画・制作が専門。カザルスホール、第一生命ホール、サントリーホールで企画制作にたずさわる一方、クラシック音楽アーティストとともにアウトリーチやワークショップなどコミュニティ・エンゲージメント活動の普及・推進に取り組み、地域密着型アート NPO トリトン・アーツ・ネットワーク設立に参画。室内楽を中心に、音楽家、アーツセンター、音楽大学、音楽祭とグローバル・ネットワークを活かしたプロジェクトも積極的に進めている。

I 内容とスケジュール

A. オリエンテーション 2016年7月20日(水) 18:00-21:00

ゼミの内容と流れを説明し、受講生同士の交流を図るため簡単なワークショップを行います。ゲストに活躍著しい若手ダンサー・振付家を迎え、同世代のアーティストと交流を図ることで、今の時代に必要な言葉やスキルについて受講生全員で考えます。

ゲスト: 平原慎太郎(OrganWorks 主宰、ダンサー・振付家)

B. レクチャー①～④「社会へ開かれた現代音楽とは？」

現代音楽と社会の関係性について、〈歴史〉〈企画〉〈メセナ〉〈地域・公共ホール〉と、各分野の第一線で活躍する講師から意見を聞き、ディスカッションします。

①2016年7月27日(水) 19:00-21:00 **講師: 池田卓夫**(音楽ジャーナリスト)

②2016年7月28日(木) 19:00-21:00 **講師: 国塩哲紀**(東京都交響楽団芸術主幹)

③2016年7月29日(金) 19:00-21:00 **講師: 久野敦子**(公益財団法人セゾン文化財団 事務局長兼プログラム・ディレクター)

④2016年8月6日(土) 14:00-15:30 **講師: 水上俊秀**(一般財団法人地域創造 芸術環境部ディレクター(音楽))

C. プレゼンテーション・ワークショップ 2016年8月4日(木) 18:00-21:00

「何をしたいのか?」、「何を伝えたいのか?」を明確にするためのワークショップ。

講師: 箕口一美(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科講師)

D. ワークショップ講座 2016年8月5日(金) 18:00-21:00

ワークショップについて、その意義や手法を熟知した講師から学びます。ワークショップとコンサートの企画を作るために必要な知識を深めます。

講師: 楠瀬寿賀子(公益財団法人せたがや文化財団音楽事業部)、**中川賢一**(ピアニスト、指揮者)

E. 企画書ガイダンス 2016年8月6日(土) 15:45-18:00

結果に結びつく企画書とは何か、について、昨年行った企画講評会の内容などから、企画書を書く上でのポイントを学びます。

F. 第1回企画提出 2016年9月23日(金) 提出締切

ワークショップとコンサートが連動したプログラムを考え、企画書にまとめ、提出します。

G. 企画講評会 2016年10月26日(水) 18:00-20:00

プログラムFで提出された受講生全員の企画書を共有し、講師から個別に講評を受けます。

講師: 楠瀬寿賀子、中川賢一、沼野雄司(音楽学者、桐朋学園大学教授)、**梶 奈生子**(東京文化会館事業企画課長)

H. 第2回企画提出 2016年11月16日(水) 提出締切

企画講評会のフィードバックを反映した企画書と、音源・映像資料を提出します。

I. プレゼンテーション講評会・リハーサル

2016年11月22日(火)、23日(水)、29日(火)のうち1日※ゼミ開始後日時調整

公開プレゼンテーションの会場でリハーサルを行います。受講生は各自録画を行い、録画されたりハーサル映像から自身のプレゼンテーションを客観的に見つめます。

J. プレゼンテーション講評会 2016年12月14日(水) 18:00-21:30

公開プレゼンテーションを想定し、講師と受講生を前にプレゼンテーションを行い、講師から個別に講評を受けます。

K. 公開プレゼンテーション・リハーサル 2017年1月11日(水)または12日(木)※ゼミ開始後日時調整

プレゼンテーション講評会を経て、公開プレゼンテーションへ向けて最後の調整を行います。

講師: 楠瀬寿賀子、中川賢一、沼野雄司、梶 奈生子

L. 公開プレゼンテーション 2017年1月19日(木) 14:00-18:00

講師、音楽関係者、一般聴衆を前に行う公開プレゼンテーション。

講師: 楠瀬寿賀子、中川賢一、沼野雄司、梶 奈生子